



市は
漁港内での
釣りを
禁止しました



子供が海に
転落しそうに
なるなど
以前から安全上の
問題があり…



市では
賛成派と
反対派の
会議が
予定され…

うちじゃん…



へー
こんな
ことが

どこの
港だろ

え？



じゃあ
うみぎよって
きます

何それ



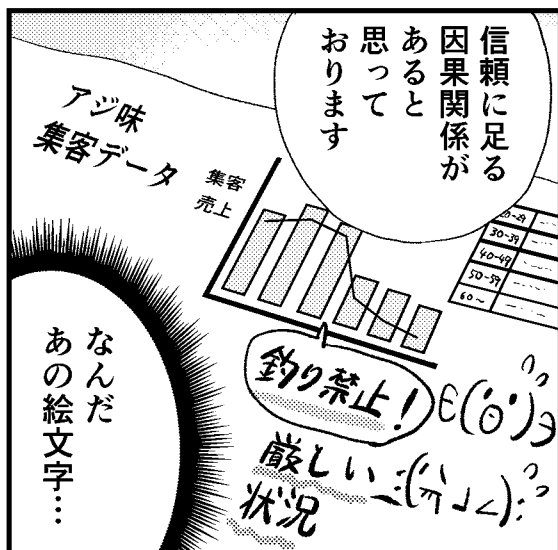
お前まさか
知らな
かったのか…

そ
そんなわけ
ないじゃ
ないです

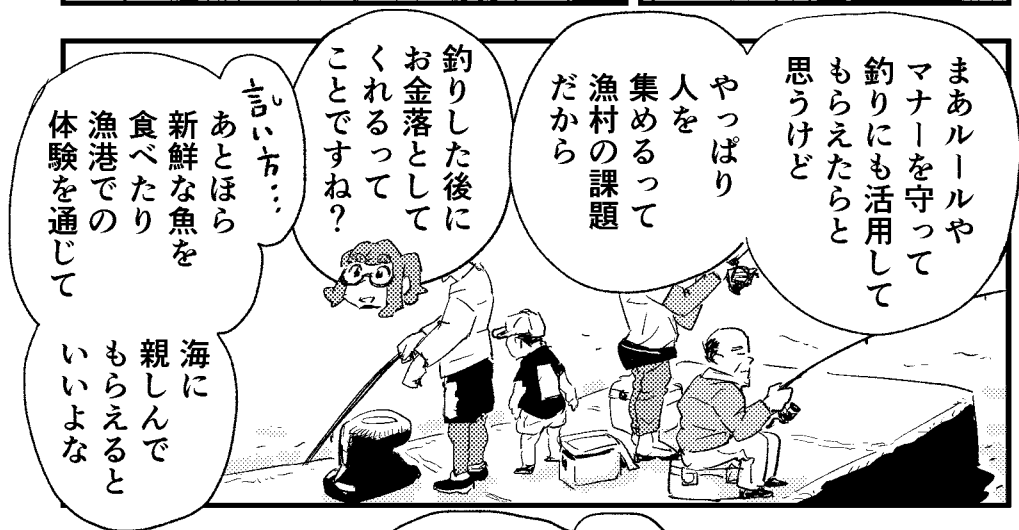
由々しき
問題
ですよね

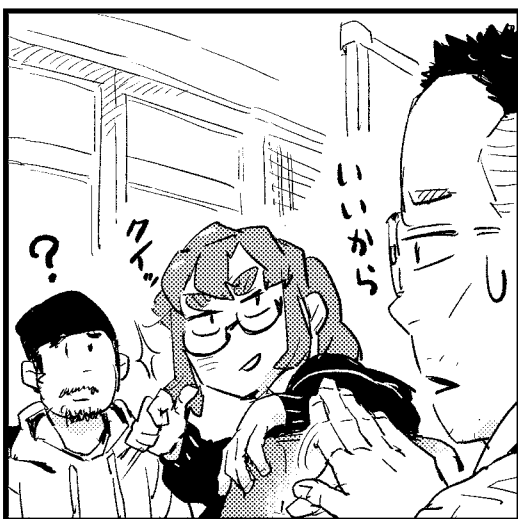


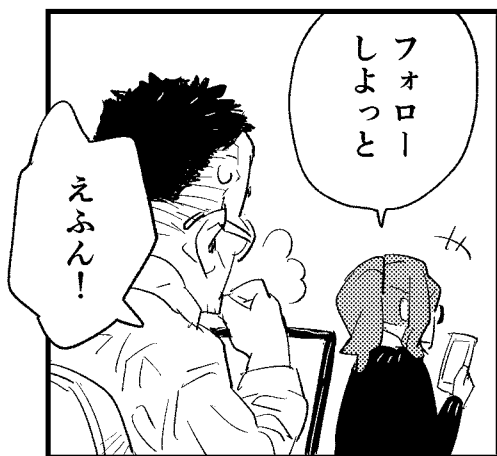
第三話 海のおいしさ

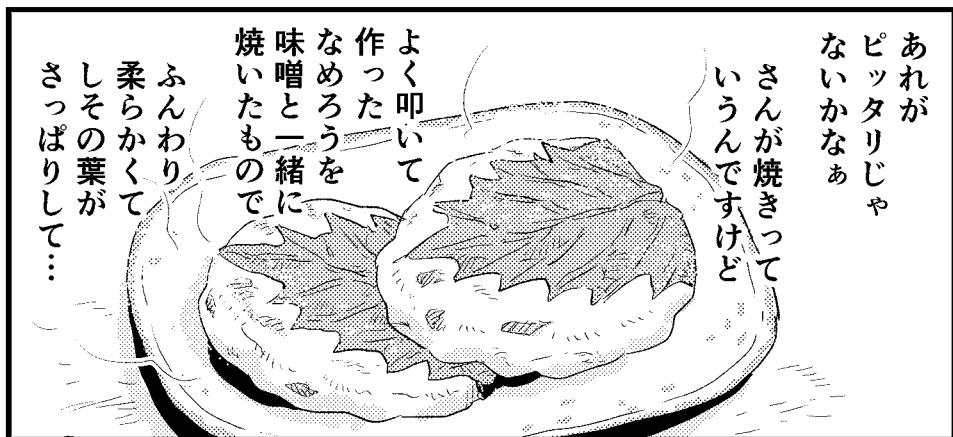


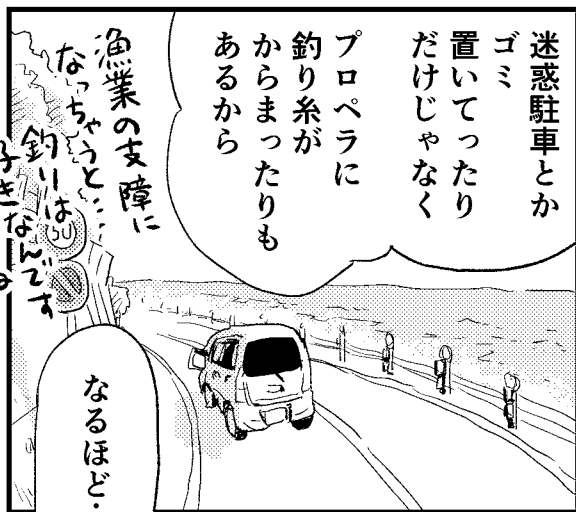
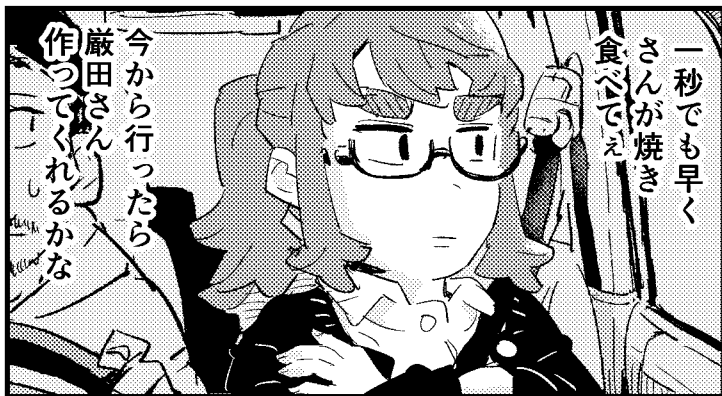
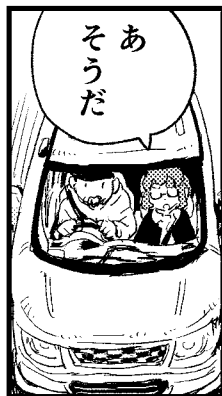
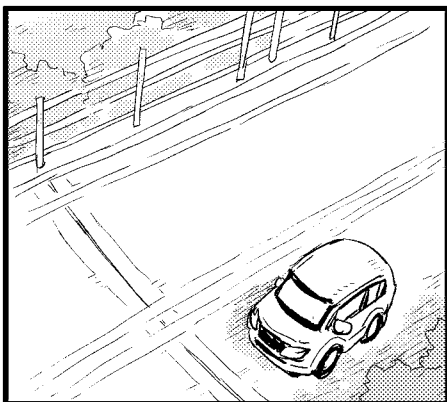


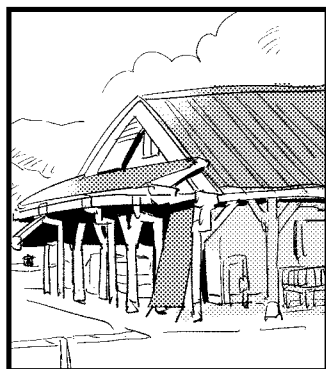












まあそんな
簡単に
解決できたなら
苦労しないわな

あ！
新メニュー
おいしい！

テラス席
初めて
座ったけど
気持ちいい
ですねー

聞いて
ない

お父さん
連れてきて
あげたいな

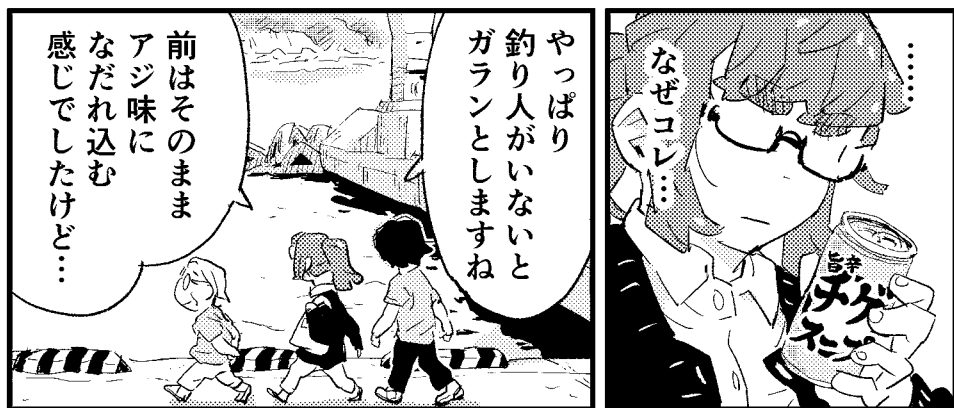
船頭
多くして
船山に登る
なんて
いう
けどさ

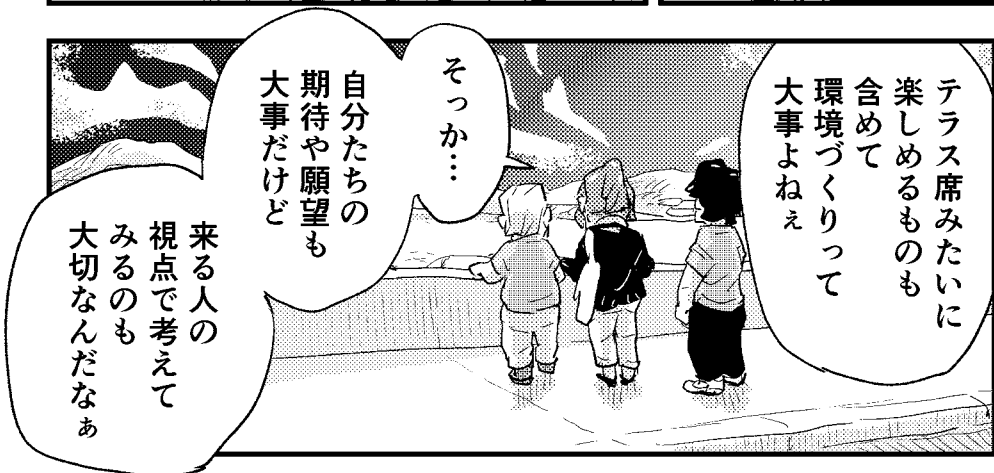
…！

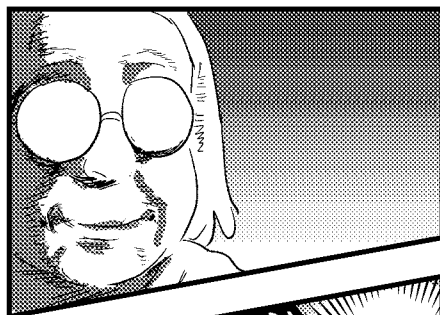
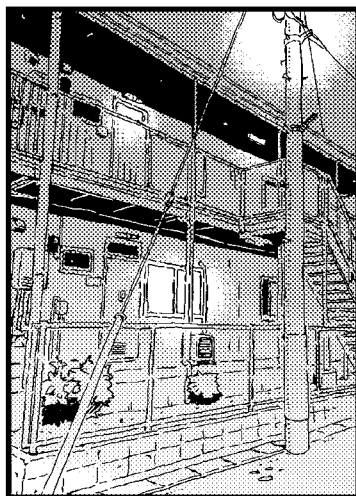
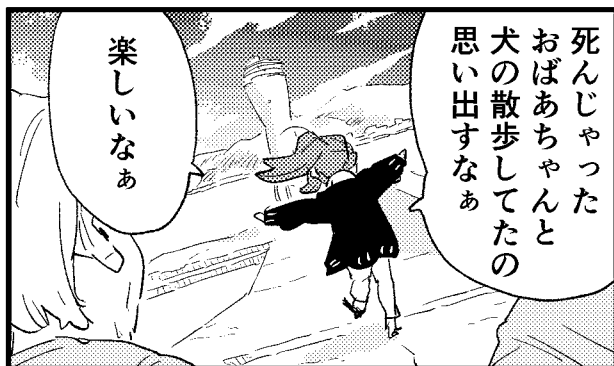
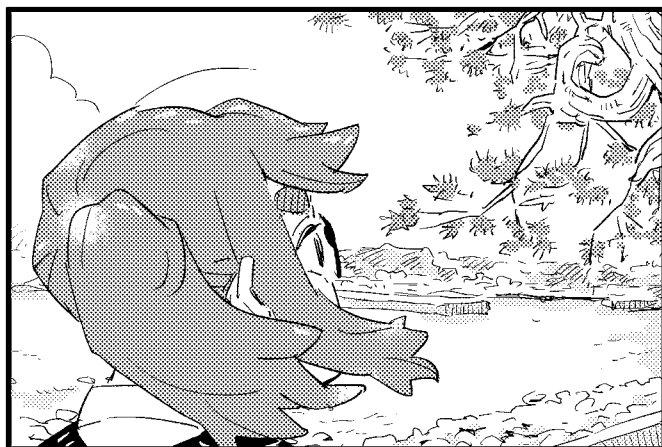
俺は
意見が多く
出るのは
悪くないと
思うけどね
海や故郷や
人を
大事にする
気持ち
が
同じならさ

いいこと
言う！

何様だ

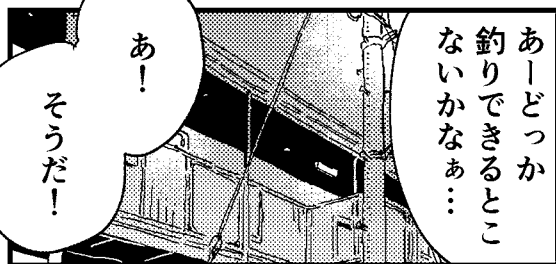
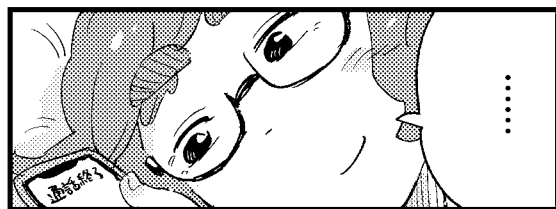






俺
犬？

志板のまな



この
我々の提案する
海上釣り堀とは

会議室

海上に設置され
安全対策を施した
イカダや桟橋から
釣りを楽しめる
施設のことです

漁業エリアと
離して
トラブルを
回避するとともに
利用者に
ルールの徹底を
お願いします

安全対策

そうすることで
安全性が確保され
家族でも楽しめます

自然の楽しさを
味わいながら
いろいろな魚を
観察したり

釣ったばかりの
新鮮な魚を
その場で味わう
ことができます

まさに
味わいづくしの
アハ体験を
供給して……

あいっ…

アハ体験を…

アハハ楽しい
体験的な
ものだ
と思ってるな…

また利用料を使って
漁港内の環境整備を
行うことにより
漁師にも…

うーん…

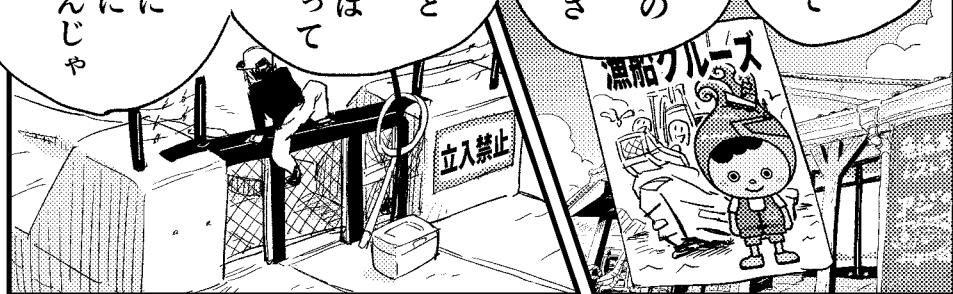
でも
釣り堀なんて作る
大きな予算に
見合う効果が
本当にあるのか？

だったら
そのお金を
広告費に回して

レストランに
漁船クルーズの
チラシを
置いたりとかさ

メリットも
あるだろうけど
漁師や
漁協にとっては
デメリットだって
あるんだから

せっかく
禁止したのに
元の木阿弥に
なっちゃうんじや
ないの



それは…

いいですか

波田野

は、はい

アジ味の
新メニュー食べて
おいしかったんだろ

どう思った

え…

また来よう
とか：

お父さん
連れて
きたいなとか

私は
こういうことが
大切だと
思うんですね

もちろん
広告は大事です

でももしも
そこに
生きた体験談が
加わったら
これは強いですよ

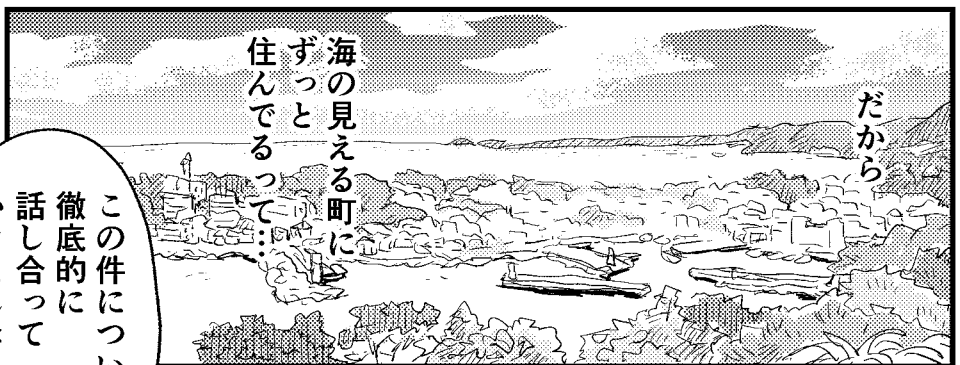
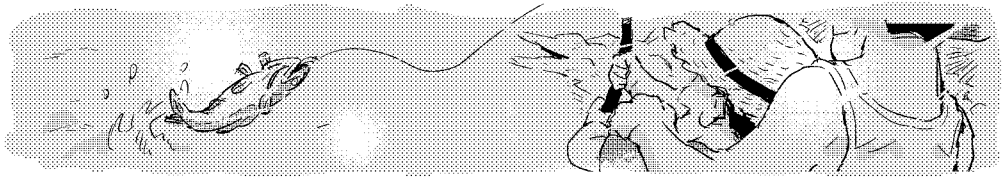
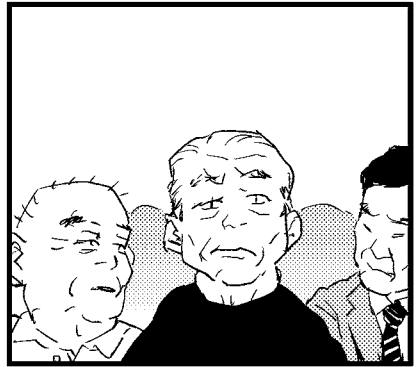
海の魅力を
持ち帰って
広げてくれて

点と点だった
海業を
線に繋ぐ

そして
今度は
その線の数を
増やしていく

そういう視点で

この
海上釣り堀には
魅力があると
思います



数年後

I市役所

水産課
海業振興室

かすみ先輩
助けて
くださいよー!

海業の
新しい展開って
どうしたら
いいんですかー!

もおー
勘弁してよ

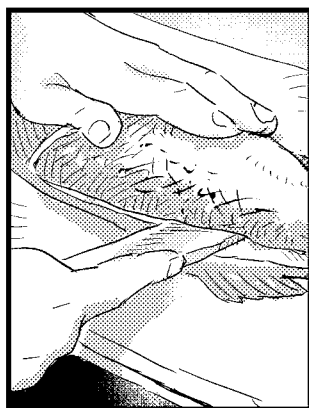
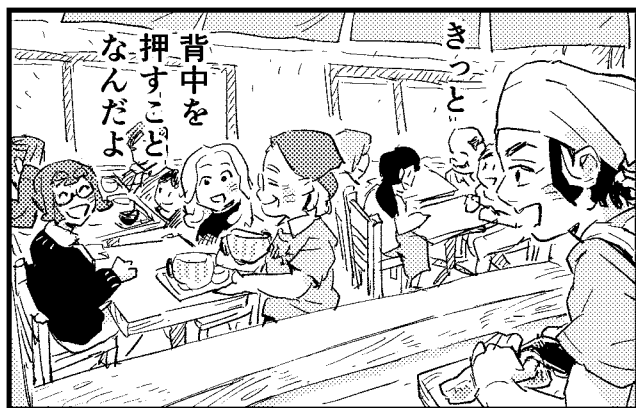
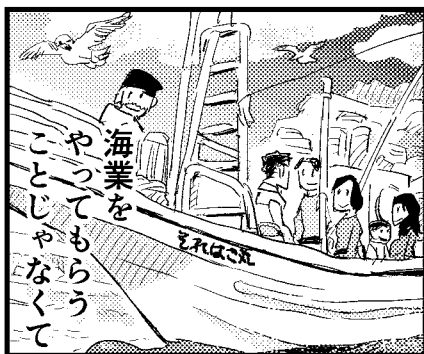
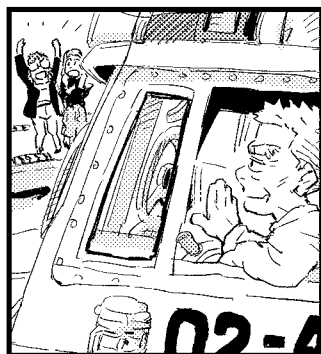
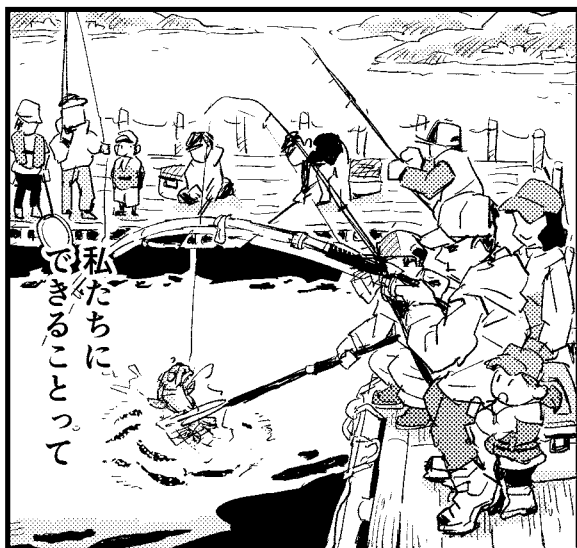
辞令が
出たんだから…

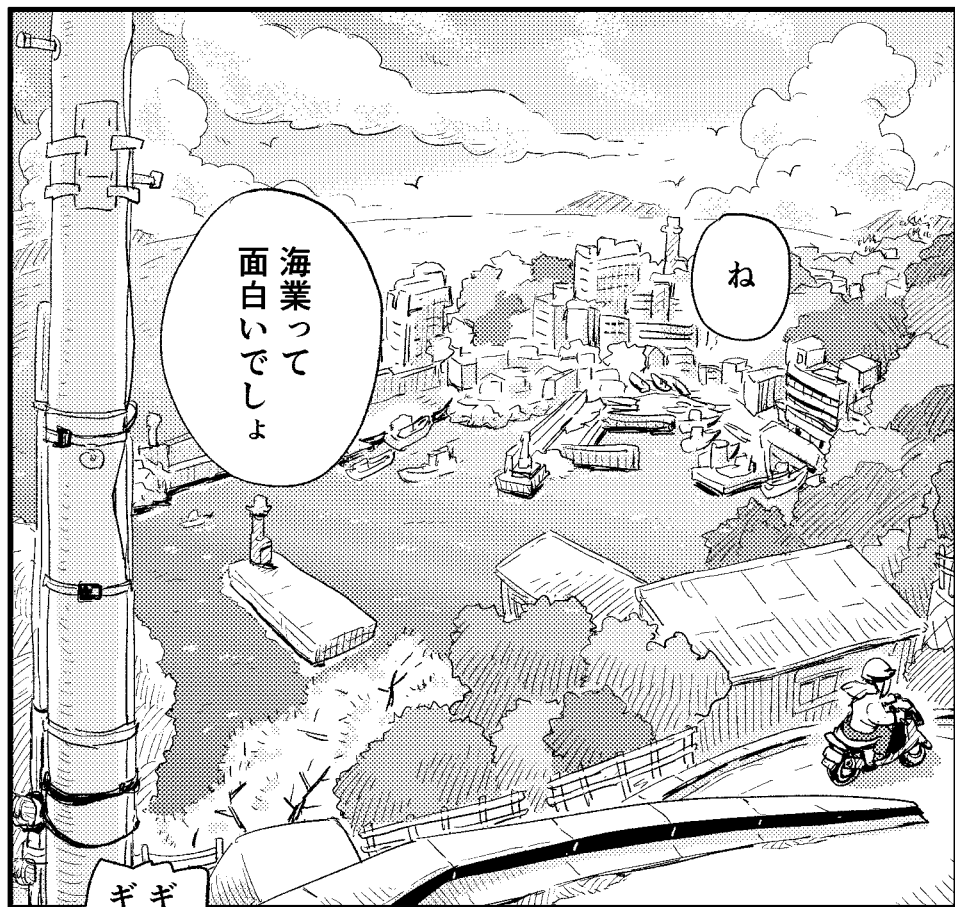
かすみ主任と
呼んで
くれたまえ

よーし

お昼ついでに
打ち合わせ
行こうか!

海上
釣り
場の





海業って
面白いでしょ

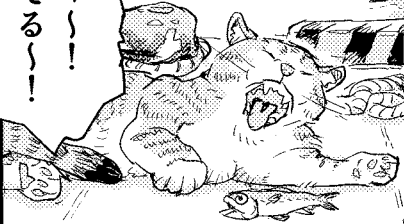
ね

ギョ
ギョッ

で、でも
服の上で
点と点が
線に…
うぎゃー!!
垂れてる…!

いいこと
言ってます
けど
服に海鮮のタレ
飛んじやって
ますよ…

かすみ
先輩…



漫画『うみぎょう!』で伝えなかったこと

第一話 海業ってなんですか

一番最初のお話なので、漁師さんと海業の関係性について描きました。とある漁港へ取材にうかがって、漁協の組合長さんや漁船クルーズに取り組む漁船に乗船させていただき、船長さん、奥さん、息子さんにお話をうかがいました。時代や環境が変化する中で、大変多くの苦労や工夫があったとお話してくれました。新しいことをはじめるにあたり、さまざまな意見や考え方があるということは想像に難くないですが、お会いしたすべての方の共通点があって、それは「みんな海が好き」ということ。漫画の中でも昔気質の漁師の巖田さんが海や仕事を大切にしている気持ちとそれゆえに葛藤する様子に心を打たれたかすみの行動を通じてそれが描けたと思います。



第二話 人生と魚のさばき方

この回は、漁協直営の食堂で美味しい食事とお話をうかがって思いついたお話です。漫画では、何をしてもうまくいかない鉄平の視点で、架空の食堂「アジ味」で起こる人間ドラマを描きました。海業の一環ではじめられたという地元で獲れる食材をメインにあつかう漁協直営のお店、誰もが最初は経験のない不慣れた仕事をするからトラブルはつきものだけど、みんなで助け合っていくことで解決していく。海業ではときには慣れないこと、経験のないことにもチャレンジする場面があるけど、鉄平が魚を上手にさばけるまでに成長するエピソードを通じて、個々の努力とそれをチームで助け合っていく先に海業の未来があることを伝えたいです。



第三話 海のおいしさ

前話から少し時間が経過した頃のお話で、漁港では観光客の方の釣りを容認するか禁止するかで意見が分かれています。漫画では、漁師メシや直営食堂、釣りの思い出など、かすみらしく「海のおいしさ」を交えてこのテーマについて展開していきます。この回で最も伝えなかったのは、釣り堀の是非ではなく最後のページでのかすみのセリフ「海業をやってもらうことじゃなくて、きっと、背中を押すこと」です。第一話の冒頭では巖田さんに対して前者の感じでどこか押し付け気味にすすめていたかすみが、この回では海業を正しく理解しています。海業とは、漁港に関わる当事者、漁港に来る人、すべてのみなさんが自分たちの幸せのためにも取り組むことであり、それが「海業」の本質と伝えたいです。



うみぎょう!

2025年3月17日 初版第1刷発行

著者 : 葉野 宗介(はのそうすけ)
漫画家。ユーモアあふれるセリフまわしとキャラクターづくりに定評があり、主に青年誌を中心に執筆している。

発行 : 水産庁

企画 : 一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所
株式会社アール・ビー・アイ

編集 : Acky Bright

装丁・デザイン : 蔡 ゆてい、木村 萌葉

印刷 : キュービシステム株式会社

水産庁

